

「写生」

自分の人生を振り返ると正直「光陰矢の如し」。子供の頃に記憶した地名や歌詞はフルに言えるのに最近覚えた人の名前がすぐ出て来ずあせる…気持ちでは40歳あたりのつもりが、やっぱり(1949年生まれ)歳相応ということなのでしょう…。

父親は日本画家でした、ところで日本画と洋画の区別ってわか



※出品画モチーフの吉野杉を前に思いをつぶやく父

りますか？

戦前・戦後間もない時代まで、庶民が住む長屋や家にはふつうに襖絵(ふすまゑ)や床の間に掛ける掛軸(かけじく)、屏風(びょうぶ)に縁起物の七福神や伝承を題材にした日本画の注文がかなりあって、画家が描いた原画をそのまま表具して使いました。

お正月前に多い注文は、新春の波に洗われる夫婦岩(めおといわ)とお日様の絵(初日の出)、題は「波に日の出」。父は画商から大量に注文され黙々と描いていました。

絵を描くのが好きだった農家の次男坊(家督を継げない)の父親は、日本画なら食べていけるかもと、19歳で大阪の日本画



家に弟子入りしました。

まあ…しかし甘くはなく、戦後のどん底の日々、人びとは食べ



※幼い息子に心の負担をかけ過ぎたことを反省する父

ることが最優先。戦後生まれの子ども達(ベビーブーマー)が小学校に入る頃になり、ようやく化粧品の蓋に金色の塗料で模様を描いてくれとか、学童用のカバンや筆箱に野球ヒーローや女性バレリーナーのイラストを描いてくれといった依頼が。父親はアルバイトを雇って同じ図柄を何百個も描き続ける職人仕事をこなしていました。

これらの注文されるイラストは絵にはちがいないけれど単純で退屈な絵、本人はもっと創造的な絵を描きたいけれど買っても



※大作を前によく出たのが(情熱)という言葉

らえるあてがない。画家が自分のオリジナルな創作で収入を得るのは簡単なことではないのです。

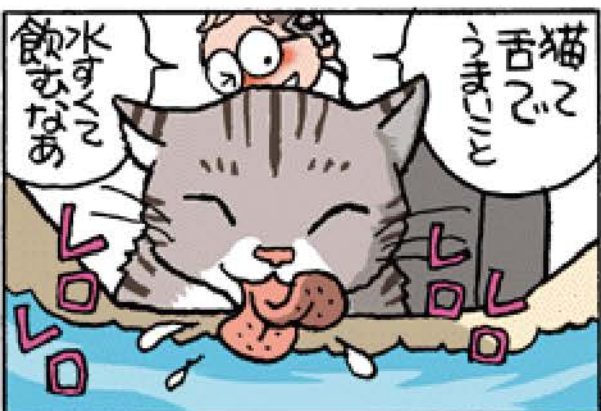
今回は「好き」を仕事にしたい父親の苦闘を息子の記憶を元に綴ったお話です。



(1) 写生



(2) 写生



東成区の昭利



(3) 写生



ようしや...
男前に
なった



LLLL
そんな器用
に舌動か
へんげ



カチカチ
来週の
日曜日
写生に
行くか
?

東成区の昭利



(4) 写生



写生?
秋の青獅子花展
に出るよ
の取次に行く
のや



お父さん
奈良の
吉野杉の
描画の
思いつき



吉野杉
?
朝一番の
始発電車
行くぞ

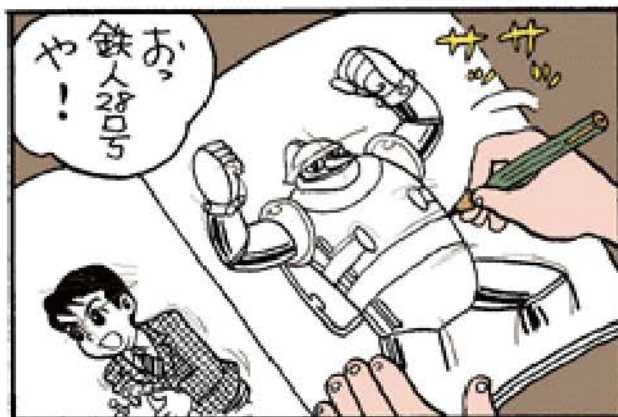
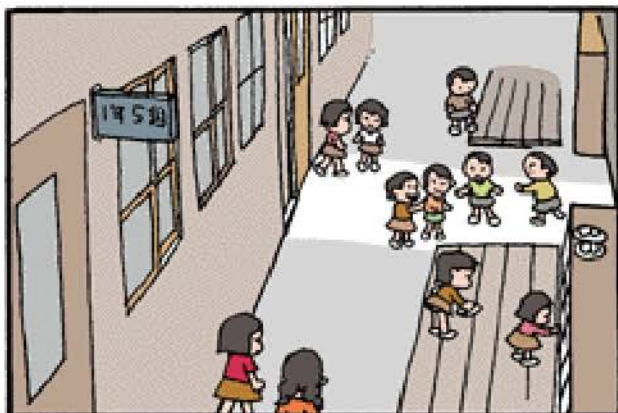


カチカチ
ほんまに
オキリ
行くぞ
ほんまに
行くぞ

東成区の昭和



(5) 写生



東成区の昭和



(6) 写生



東成区の昭和



(7) 写生



東成区の昭和



(8) 写生



東成区の昭和



(9) 写生



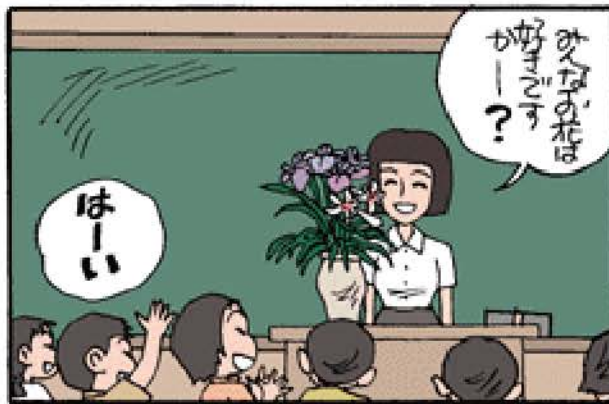
東成区の昭和



(10) 写生



(11) 写生



(12) 写生



東成区の昭和



(13) 写生



東成区の昭和



(14) 写生

